

私は、「住民主体の復興まちづくり」という言葉にひかれて、二〇一二年三月に生まれ育った東京を離れ、宮城県亘理町にやって来ました。

「住民主体」というキーワードは、大学時代に環境問題に関心を持ち、何が根本的解決になるのか悩んでいた中で出会ったものでした。スウェーデン等で行われてきた、住民主体のまちづくりで環境問題の解決を行っている事例を知った時に、「これだ」と思いました。住民それぞれが持つ問題意識を皆で共有し、その解決に取り組むというものです。

グリーンベルト
プロジェクト
事務局スタッフ
細田幸恵さん



東北復興日記

33



沿岸復興 住民主体で

「わたりグリーンベルト」は、亘三十三時間及びワークシ
トプロジェクトは、亘三十三時間及びワークシ
理町の津波で流出した防ヨップを行い、このエリ
潮林や農地等も含めた沿岸の基本構想書を仕上げ
岸部、南北四、東西一、また写真。町はこれ
の復興を住民主体で行を具体化するため、専門
おつというものです。去家と沿岸部区長をメンバ
年は、六月から九月にかーとした会議を設け、今

「私が感じた住民主体と契機さえあれば人々の中から自然に生まれてくるということでした。もっと面白いまちにしたい」「自然があふれるまちにしたい」等、地元への思いは、郷土愛が強い東北の人々は皆が持っていると感じます。私は、その思いを皆で話し合う場をつくり、それを少しずつ実現するお手伝いをさせていただいていることに大きなやりがいを感じています。

一年間の活動を経た今、住民の未来づくりに対する、積極性、真剣さが大きく高まりました。四月以降は、プランの実現に向け、さらに詳細な事業計画を住民と専門家が一緒になって作成し、町、県、国に提出する予定です。課題はたくさんありますが、将来、巨理町の人々が、震災からの復興を子どもたちに自慢げに語りつぐ町になることを願っています。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。